

## 短期経済観測調査 結果の概況（茨城県）

平成 12 年 4 月 2 日  
日本銀行水戸事務所

### 【業況判断】

#### ～製造業で前回比大幅な悪化～

足許 3 月の業況判断をみると、製造業では、半導体関連の需要鎮静や輸出の減少等を背景に、非鉄金属、化学等が慎重な見方に転じたことから、▲27%と前回（▲17%）比大幅な悪化となった。一方、非製造業では、公共工事の落込みや流通構造の変化等を背景に、競争激化・単価下落が続き、業況不振を余儀なくされる先が多いことから、▲32%と前回（▲32%）並みのマイナスとなった。

この結果、全産業では、▲30%と前回（▲25%）比悪化した（10/9 月 ▲49%→▲53%）並みの悪化幅。

先行き 6 月までの予測についてみると、製造業（▲28%）はほぼ横這いながら、非製造業（▲36%）が「悪い」超幅を拡大するため、全産業では▲32%と更に悪化する見込み。

### 【製品需給、在庫、価格判断】

製造業の製品需給判断は、引き続き「供給超過」の状態が続く見通し。在庫水準判断は、足許非製造業で過剰感が強まっているが、先行きは製造業、非製造業ともに、過剰感が後退する見通し。仕入価格判断は、足許製造業を中心に強含みとなっているが、非製造業は小幅の「下落」超を続けている。一方、販売価格判断は、製造業、非製造業ともに大幅な「下落」超となっている。

### 【売 上】

12 年度売上げは、製造業では下期に輸出が下方修

正されたが、国内向けがカバーする形で 4 年ぶりの増収となる見込み。非製造業も、小売の出店効果等から、製造業同様、4 年ぶりの増収見込み。13 年度計画をみると、製造業では非鉄金属、電気機械を中心に、また非製造業では引き続き小売を中心に、それぞれ 2 年連続の増収計画となっている。

### 【経常利益】

12 年度については、単価下落等から減益となる先が少なくないが、他方、売上げ増のほか、営業所の統廃合、人件費の削減、仕入先や設計・製造方法の見直し等によるコスト削減策が実を結びつつあることから、全体では製造業中心に 2 年連続の増益となる見込み。13 年度計画は、製造業が 3 年連続の増益となる一方、非製造業では小幅減益となる見通し。

### 【設備投資】

12 年度は、製造業が前回調査比殆ど修正されず、前年度を 5 割方上回るレベルで着地する見込み。一方、非製造業は前年度を僅かに下回る見込み。13 年度については、製造業が引き続き前年度を上回るのに対し、非製造業は前年まで出店の集中をみた小売の反動減を主因に、前年度を 2 割強下回る計画となっている。

### 【雇 用】

雇用人員判断をみると、昨夏以降逐次過剰感を縮小してきたが、足許改善一服となり、先行きは非製造業中心に再び改善する見通し。12/12 月末の雇用人員は、製造業を中心に前年比マイナス幅を縮小した。

### 【企業金融】

資金繰り判断は、苦しさが徐々に強まり、金融機関の貸出態度判断も、非製造業中心に先行き厳しさがやや強まるとの見方。また、借入金利水準判断は、足許「上昇」超幅が大幅に縮小。

◇業況判断D.I.（「良い」－「悪い」）の内訳

